

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	201	学校名	仙台市立第一中学校	校長名	高橋 恭一
------	-----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
～FCP (First Clean Project) ～



2 取組の紹介

(1) 本校では、ゴミ拾い登校をFCP (First Clean Project) と名付け、校友会(生徒会執行部)が中心となり全校生徒が地域清掃活動に取り組んでいました。例年は、復興プロジェクトの一環として月1回、朝の登校時のゴミ拾い清掃、どんと祭の後に地域や大崎八幡宮境内の清掃などの奉仕活動を行っていました。新型コロナウイルスの影響で最近では行うことができていませんでしたが、今年度は3年ぶりに実施することができました。

(2) 校友会執行部が、「プリリサ」と名付けたプリントリサイクル活動を行いました。各学級にリサイクルボックスを設置し、学習プリントの残部などをボックスに溜めておきます。学級委員がボックスの管理を行い、週に1回程度溜まったプリント類を校友会室前のスペースに種類ごとに分別して、収集し、校友会執行部が取りまとめ、裏紙として活用できるものと古紙回収に出すものを仕分けしています。昨年度、生徒たちから出た「裏紙をもっと活用したい。」という意見から、学級ではボックスに溜まった裏紙を活用することにしました。

(3) 美化委員会が中心となり、学校の道路沿いの花壇に花を植えました。その後は、部活動ごとに担当を決めて、昼休みや活動前などに水やりを行い、学校や地域の緑化活動を行っています。

3 取組の成果(児童生徒の変容)

(1) 拡大FCPについて

- ・清掃活動を通して、いつもお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを伝えようと有志参加としましたが300人以上の生徒が参加しました。多くの生徒が活動に参加することで、自分たちが学校や地域の環境整備に貢献しているという意識を持たせることができました。

(2) プリリサについて

- ・ゴミとしてプリントを捨てることなく、使えるものは活用していこうとする意識が定着しています。計算や問題の出し合いなどを、学級の裏紙を活用して行う姿が見られます。

(3) 緑化活動について

- ・美化委員だけでなく、多くの生徒が活動に参加しました。コロナ禍で、できる活動が限られている中ですが、自分たちができることを精一杯やろうとする姿が見られました。



FCP の活動の様子

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	202	学校名	仙台市立第二中学校	校長名	千葉 伸治
------	-----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル、テーマ
「実行可能なことから着実に一歩ずつ」



2 取組の紹介

今年度もコロナ禍でいろいろな活動の制約がある中で実施した主な取組を紹介します。

○1年校外学習

1学年の校外学習では、昨年度同様に防災学習を兼ねて石巻市雄勝町を訪れました。「雄勝ローズファクトリーガーデン」では植樹した樹木への水やりや樹木周辺の草刈りを、「モリウミアス」では森を歩いて拾った木の枝を燃料にして湯を沸かし、自分たちでさばいたホヤを蒸して食べる体験を行いました。この活動を通して、東日本大震災からの復興以外に自然の豊かさや恵み、大切さ、環境の保全について学びました。



○夏休み除草作業

夏休み期間中に部活動ごとの担当場所を割り当て、「部員みんなで雑草を取ろう」を合言葉に校地内の除草作業を実施しました。天候不良の日が多かったのですが、暑い中、全部員が一生懸命作業に取り組みました。



○校内での活動

今年度も継続して「節電」「節水」「ゴミ分別」「リサイクル」について学校全体で取り組みました。今年度初めての試みとして、ひかり・ひびき学級では、今年の日付を裏紙に印刷したものを余っていたカレンダーに貼り付けて再利用し、新年度の校内掲示用として製作しました。

また、日頃から全校生徒は清掃を丁寧に行っており、夏休み・冬休み・春休み前には、全員で床磨きをした後に整美委員がワックス掛けをする美化活動を実施しています。整美委員会の活動として、定期的に校地内の花壇の水やりや清掃用具の点検も定期的に行い、環境美化に努めています。



3 取組の成果

- ・防災学習と関連して実施した1年生の校外学習では、東日本大震災の被災状況と復興の様子を実際に目にすることで、自然の脅威のみならず自然の恩恵を学びました。また、級友とともに同じ体験や活動を行うことで連帯感を深めました。
- ・コロナ禍で活動が制限されていますが、体験活動を行うことで環境に対する意識が深まり、日常生活の中で実行可能なものから着実に一歩ずつ実践できるようになってきています。
- ・SDG sの視点も取り入れた学習を通して、持続可能な社会を生きる人材育成をより充実させることを目指していきたいです。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	203	学校名	仙台市立三条中学校	校長名	本郷 栄治
------	-----	-----	-----------	-----	-------

- 1 取組のタイトル, テーマ
三条スタイルから始める SDGs



2 取組の紹介

(1) 生徒会の活動

- ① 時の広場の活用 (花壇の整備, 季節に合わせた装飾)
ボランティア委員会やクローバーズ (任意参加型ボランティア活動グループ) が, 中庭の「時の広場」に, 季節の花を植えたり, ハロウィンやクリスマスに合わせた装飾を施したりしています。
- ② 古紙回収活動
各教室に「古紙回収ボックス」を置き, 余ったプリントや不要になった掲示物等を入れました。そのボックスを, ボランティア委員が定期的に回収しています。
- ③ ボランティア委員会による冬の清掃活動
1月に, 校舎周りに残っている落ち葉清掃をしました。

(2) 全生徒での取組

- ① 秋の落ち葉清掃
11月に, 週替わりで学年ごとに校舎周りの落ち葉清掃に取り組みました。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)



「時の広場」の花壇の整備や季節に合わせた装飾により, 生徒の憩いの場となりました。また, 活動を通して, 植物を大切にしようとする気持ちが育まれました。

古紙回収の活動や, 落ち葉清掃の取組は, 環境美化の意識向上に成果をあげています。

これからも SDGs を意識した活動を続けていきたいと思っています。



令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	204	学校名	仙台市立上杉山中学校	校長名	吉田 知彦
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 生徒会活動における地域清掃や学校周辺の歩道の落ち葉掃き



2 取組の紹介

- (1) 本年度は生徒会のJRC委員会と整備委員会が連携して、秋に歩道や正門・昇降口付近の落ち葉掃き活動のボランティアを募り、約1ヶ月間実施しました。また、地域清掃についても、JRC委員会が企画・運営を行い、毎月実施しました。

【落ち葉掃きの様子】



【地域清掃の様子】



【雪かき】



- (2) 学校におけるリサイクル活動として、以下の活動に取り組みました。

- ・使用済み紙の回収
- ・プラゴミ、ペットボトル等のゴミ分別回収 等

3 取組の成果

- JRC委員が全校に呼び掛けて地域清掃を定期的に行い、学区内の美化に取り組みました。参加率100%を合言葉に、回を重ねるにつれて参加する生徒が増え、周辺地域の美化活動に貢献できたと考えています。

本年度はJRC委員と整備委員会が連携を図り、ボランティアを募って11月に毎日落ち葉清掃を行いました。雪が降ったときには、生徒が雪かきを自主的に手伝えるなど、奉仕の心を育てることができました。

- リサイクル率の向上を目指し、年間を通じて古紙回収やプラゴミ、ペットボトル等のゴミ分別回収に取り組みました。生徒の環境問題に対する興味・関心を高め、地球温暖化の問題や、自然や環境に関する身近な問題に取り組むきっかけとなりました。次年度も、生徒・職員共にこうした活動に、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	205	学校名	仙台市立五城中学校	校長名	山脇 豊勝
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ

「日常生活の中で推進する環境教育」



2 取組の紹介

(1) 委員会活動

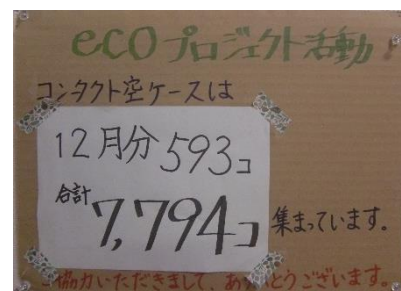
① 奉仕委員会では、古紙回収を行っています。各教室で余ったプリントや不要になった掲示物を古紙回収ボックスに入れてもらい、委員会の時に全校分を個人情報に注意して分別しています。また、書き損じはがきの回収を行っており、集まったはがきは県視覚障害者福祉協会に送り、その協会の運営費として運用されるなど、社会貢献活動に参加しています。



② 整美委員会では、生徒が毎週末に自在ぼうきの先に付いたゴミを丁寧に取り除き、使用期間を少しでも長く延ばせるように取り組んでいます。古くなって交換せざるを得なくなった自在ぼうきは、先の部分だけを取り替え、廃棄物を少なくするように心掛けています。



③ 保健委員会では、昨年度から使用済みのコンタクトレンズの空ケースを回収しています。多くの生徒の協力で、12月末現在7,794個の空ケースを回収することができました。回収した空ケースは企業へ送り、日本アイバンク協会の活動に役立ててもらおう予定です。



(2) 一年中「マイボトル」の持参

日常の水分補給として、水筒の「マイボトル」を持参させています。中身は水の他に茶やスポーツドリンクで、弁当の時でもペットボトルを持ち込むことはありません。自然とゴミを出さない生活が身に付いてきています。

(3) 冬期間のお湯づくり

冬期間においては、黒のビニールテープを巻いたペットボトルに水を入れて窓際に置いておきます。太陽熱によって温められてできたお湯を使って、配膳台を拭いたり床の拭き掃除を行ったりするなど、少しの工夫がエネルギーの節約になることを体感しながら清掃等に励んでいます。



3 取組の成果

昨年度から行っているコンタクトレンズの空ケースの回収では、学校全体に取組が広がり、昨年度と同時期に比べ、多くの空ケースを回収することができました。全校生徒の環境やエコに対する意識が高まってきたように感じます。また、清掃活動や教室でのゴミの分別に多くの生徒が主体的に取り組んでいます。今後は、生徒がSDGsについて学ぶ機会を増やし、保護者や地域の方々とも協力しながら校内外で積極的にエコや美化活動に取り組む生徒を育てていきたいと思ひます。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	206	学校名	仙台市立宮城野中学校	校長名	我妻 仁
------	-----	-----	------------	-----	------

1 取組のタイトル, テーマ

SDGs ～グローバルな視点から今私たちにできることとは～



2 取組の紹介

3 学年企画 SDGs 環境出前講座

① キリバス共和国から地球温暖化を考える (昨年度)

日本唯一のキリバス共和国の専門団体日本キリバス協会の代表理事であるケンタロ・オノさんをお招きし、地球温暖化・気候変動が与えるキリバス共和国への影響、そして同じ地球に暮らす一人としてできること等について講話をいただいた。

② 南極編

第49次日本南極地域観測隊員の石井洋子さんを講師として、オンライン講話を開催した。南極の自然の尊さ、観測隊の生活や環境保全の取組について知り、自然環境を守る大切さについて考えを深めた。

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

活動を終えての生徒の感想 (一部抜粋)

- ・今まで私は地球温暖化はそれ程大変なことではないと思っていました。しかし、今回の講話を聞いて地球にも、そして地球に住んでいる私たちにとっても大きな問題だと思いました。地球を守るために電気やガスを大切にするなど、できることから全力で取り組もうと思います。
- ・自分たちが知らないところで、災害で苦しんでいる人たちがいることを知りました。キリバスや世界で災害が起きないように、できる限りのことをしたいと思います。
- ・初めてキリバスという国を知りました。美しい自然に囲まれた国ですが、地球温暖化が進むと海に沈んでしまうことに驚きました。自分よりも小さな子がつらい思いをしていることを知って、自分にできることをしたいと思いました。
- ・特に印象に残っていることは「愛の反対とは無知と無関心」という言葉です。キリバスで起きていることを遠い国のことと考えずに、自分ができることから行動していきたいです。

- ・生活をする上で、食品ロスをなくすために食べ物を残さないようにしたり、保存したりするなど、様々な工夫がされていることを知りました。そして、全員が協力してフロンガスの排出を減らす取組をすることで、オゾンが増えてきていることに驚きました。
- ・南極での生活で、冷凍保存を活用しゴミを減らし環境汚染をなくす活動をしていることを知りました。ゴミを減らす活動に協力することが今の自分にとって必要不可欠だと思いました。今日学んだこと以外にも、色んな自然に触れてSDGsについて学び、視野を広げていきたいと思いました。
- ・南極の昭和基地での生活で、「ないものはあるもので作る」という考え方が無駄をなくすために必要だと思いました。私も身近なことからやってみたいと思います。
- ・様々な国から集まった観測隊が競わずに協力していることに驚きました。日本にいたら全く知ることのできない南極のことを学ぶことで、最終的に日本を含む地球を守ることにつながるというサイクルが実現できればいいなと思います。今回の講話を聞いて、南極に行ってみたく思ったのはもちろん、SDGsについてもっと色んな視点から考えたいと思いました。
- ・南極を知ることで地球を知ることができる、知ることができることで地球を守ることができるという考え方がいいと思いました。南極の動物、星、オーロラの写真を見て、このようなきれいな地球がなくならないよう、自分一人が行動しても変わらないと思わず、できることをしていきたいと思いました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	207	学校名	仙台市立東仙台中学校	校長名	工藤 哲
------	-----	-----	------------	-----	------

1 テーマ「よりよい環境へ、できることを」



2 取組の紹介

① ペットボトル飲料のキャップ回収

JRC 委員会が中心となり活動を行っています。各学級にかごを常設し、家庭から出たペットボトルのキャップをいつでも回収できるようにしています。集まったキャップは、月に一度、全校から回収した分を業者に持っていきます。その量は1ヶ月あたりおよそ1万個で、年間では10万個ほどになります。6個のキャップをリサイクルすることでポリオワクチンを一つ作ることができます。JRC 委員会では年間を通して、キャップ回収の協力を求める声掛けをするほか、月に1回程度行われる委員会活動の際に、各クラスからいくつキャップが持ち寄られたか数え、学級に報告しています。



② 校内の緑化活動

美化委員会では活動の一つとして花壇の整備を行っています。今年度の夏には種まきを行いました。また、今年度は美化委員以外でも緑化活動に携わった生徒がいます。2学年の職場体験活動で、中学校の技師さんの仕事の一つとして花壇の草取りを行いました。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	合計
1年	36	329	137	5	516	385	10	2612	
2年	125	17	383	31	442	561	1536		5137
3年	85	24	2	297	416	11	185	31	1145



3 取組の成果（児童生徒の変容）

ペットボトルキャップ回収をこれまでも継続的に実施してきたことから、2・3年生は家庭で不要になったキャップを持ってくることが当たり前になりつつあります。牛乳パックや食品トレイ、ペットボトルについては、近年、多くのスーパーマーケットで回収を行っています。ペットボトルキャップ回収を行っている店舗は限られています。毎日登校する学校に持っていくだけで、ゴミとして処分されるものが有効に活用され、気軽にエコ活動に協力できるという意識が育っているものと考えられます。

花壇の整備では、普段何気なく目にしている花壇がどのように手間をかけられて美しく保たれているかを知り、緑化活動への関心が高まっていました。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	208	学校名	仙台市立東華中学校	校長名	佐藤 丈春
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ

【第2学年】SDGs についての学習～体験活動を通したエネルギーの持続可能な利用や自然環境についての学び～



2 取組の紹介

(1) ねらい

校外研修で訪れた山形県の森や海での体験活動を通し、地域のエネルギーの循環のための取組や、自然環境の保全の重要性について学ぶ。

(2) 活動内容

①「森林ノミクス」 森林資源の循環

山形県戸沢村では、バイオマス発電所や苗木の畑、材木の製材所等を見学しました。「再生可能エネルギーの利用」や「森林の持続可能な管理」の達成のために、間伐材などを燃料として利用するシステムや、森林資源の整備及び林業を活性化させていること学びました。また、林間での間伐作業を体験し、自然環境の豊かさやそれを守る大切さも実感しました。



②「ウミモリ体験」 自然環境の恩恵

鶴岡市では海浜及び内陸部での体験活動に取り組みました。ビーチコーミング（海浜の漂流物の収集）や、イカの一晩干し作り、特産の“しな織り”に用いられるシナノキの繊維を使ったタッセル作りなどを通し、「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」「陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進をする」ことの重要性を学びました。



3 取組の成果（生徒の変容）

「森林ノミクス」では、木質バイオマス発電を中心とした取組について学んだことで、森林がもたらす自然の恵みを守り、回復させ、持続可能な形で利用できるようにする大切さや、再生可能エネルギーの利用をより一層進めていく必要性など、環境問題や環境保全についての関心が高まりました。

「ウミモリ体験」では、シナノキの繊維や実を使った制作で山地の生態系の豊かさを、いかだ体験や釣り、イカの一晩干し作りで海の豊かさを、それぞれ実感することができました。また、浜辺の漂着物を目の当たりにしてその多さに驚き、自分たちの便利な生活の一方で、分解されにくい物質が生態系に及ぼす問題についても考えることができました。

SDGs は自分たちの暮らしに直接つながっているものであり、自分の行動に責任を持つという意識が高まりました。

令和4年度 社の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	209	学校名	仙台市立五橋中学校	校長名	佐藤 全
------	-----	-----	-----------	-----	------

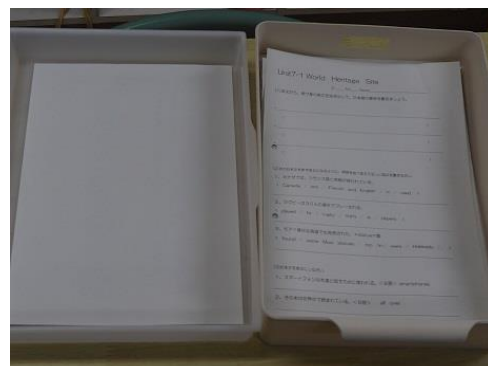
- 1 取組のタイトル, テーマ
「できることをコツコツと」



2 取組の紹介

(1) 古紙回収

奉仕委員会で古紙の回収を行っています。
各クラスで出た余りのプリント類を古紙回収ボックス
に入れ、月に1回の委員会で回収します。
委員会の際には個人情報に気を付けて、分別をしながら
古紙回収を行っています。



(2) プラごみ回収

美化委員会の仕事としてプラごみの回収を行っています。
各自で出たプラごみを専用の回収ボックスにて回収を
しています。月に一度全校分のプラごみをまとめます。
また、授業や日頃の生活においてごみを分別することの
大切さを確認しています。



(3) ペットボトル・キャップ回収

ペットボトルとペットボトルのキャップを回収する、
専用の箱を設置しています。設置することで日頃から
分別をすることの大切さを実感する機会になっています。



(4) 緑化活動

生徒会事務局を中心に季節に応じた様々な花苗を
校内に植えています。市街地にある本校を緑あふれる
学校にするため、また生命尊重の態度を養うために
日頃から水やりを欠かさないように活動しています。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

昨今では、「SDGs」という言葉をよく耳にするということもあり、温暖化の抑制など環境問題
についての関心が高い生徒が多いように思います。本校では日常的にごみの分別や校内の美化活
動を行うことで身近なところから環境を改善していこうとする意欲が高まってきました。

今後は、生徒会で行っている昼の放送の曲の募集用紙や意見箱に入れる紙を、クロームブックを
活用し、ペーパーレス化することも考えています。

令和4年度 杜の都のエコ・スクール活動報告

学校番号	210	学校名	仙台市立愛宕中学校	校長名	齋藤 健造
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

「愛宕中学校地域のエキスパートになる!」～SDGsのテーマを通して～



2 取組の紹介

1学年では、自分たちの育つ街の未来をSDGsのテーマを通して考え、様々な課題を解決しようとする意欲を持つことを目標として、様々な取組を行いました。一例として、1学年の校外学習では、愛宕中学区を中心とした場所を3つのコースに分け、環境・歴史・情報の視点から体験を交えて、SDGsに関連した講話をいただくことができました。

(1) 校外学習<Aコース> (5月17日実施)

Aコースでは、「水環境を支える生態系の力・水害の増加や減災を考える」をテーマに校外学習を行いました。地域の方とともに、生徒が実際に広瀬川に入り、生物の様子を観察することができました。(写真1)

写真1



その後、東北大学を訪問し、仙台の下水道の歴史や日本の水資源の問題について、講話を聞くことができました。

また、校外学習後に生徒が感じた課題や問題を踏まえ、Chromebookを使ってポスター作成を行いました。(写真2)

写真2



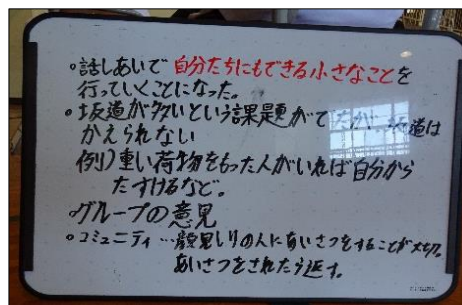
(2) 意見交換会 (9月9日実施)

校外学習後に連合町内会長をはじめ、地域の方々と愛宕中学区の課題や歴史について話し合いを行いました。生徒が司会進行を務め、自分が住んでいる愛宕中学区について積極的な話し合いが行われました。(写真3, 4)

写真3



写真4



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

校外学習や地域の方々との意見交換会、ポスター作成をとおして、SDGsに対する関心・意欲が高まったと思います。また、17の目標から愛宕中学区に関連しているものを選択し、自分たちが住んでいる地域とSDGsのつながりを意識することで、他人事ではなく当事者として、SDGsについて考えることができるようになりました。このような授業での活動はもちろん、本校では、執行部を中心として、ペットボトルのキャップ回収活動や給食委員会による残食チェックなども行われています。学校生活をとおして授業のみならず、生徒会活動や委員会活動でも環境問題への意識を高める活動を続けていきたいと思っています。